

子宮頸がんの検診の際、「子宮体がん」「卵巣がん」も検査できます。子宮体がんは患者が増え、頸がんと同程度になりました。以前から欧米は体がんが多く、食生活が欧米化したことが要因とされます。患者は五十～六十代が中心です。

体がんの症状となる月经と無関係の出血や、閉経後の出血など不正出血があつた場合は、早めの受診が早期発見につなが



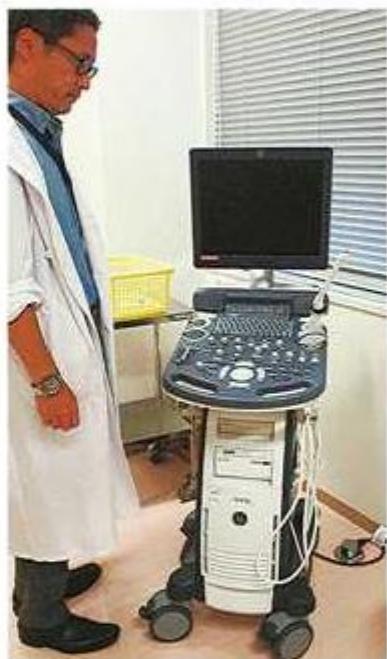
②⁹ 子宮体がん・卵巣がん検診(婦人科)

ります。頸がん検診でも最近六ヶ月以内に不正出血があつたかどうかを確認します。がんが見つかると除去手術などが必要になりますが、早期発見できれば治療できます。

子宮入り口に発生する頸がんと違い、体がんは

奥の方の子宮体部の内膜から発生します。ストローのような細長い器具で子宮内膜の細胞を採取し、細胞と組織に異常がないか調べます。少し痛みが伴います。他には、超音波（エコー）検査装置で子宮内膜を詳しく観

こりなど違和感があれば早めの受診が大切です。一般の診察で見つけるのは難しいですが、婦人科での内診では五センチ以上、婦人科超音波検査では二センチ以上の腫瘍があれば発見できます。（貝田清隆 婦人科部長・談）



 中日病院 名
古屋市中区丸の
内3の12の3。圖中日
病院=052(961)2491

察します。異常に分厚くなつていれば、がんが疑われます。

早期発見 早め受診大事